

地域を支える「まちづくりリーダー」育成プログラム 寄稿文

氏 名： 加藤 昭一

受講年度： 令和7年度

寄稿文・メッセージ

3.11 で被災したことをきっかけに、津波のたびに同じことが繰り返されてきたのは人災ではないかと考えるようになり、受講しました。

環境問題と地域防災の基礎を大学レベルの内容で市民がわかりやすく学べる貴重なプログラムだったと思います。

被災地の復興について理工学的な視点から教えていただき、今後も同じことが繰り返される可能性を温存した「復興」にならざるを得なかったこと、多重防災が守れない命を前提とした次善の策であり、風化に抗う努力を子孫に引き継げるかが鍵になることを学術的に確認できたのは収穫でした。

「第二期復興期」の今、風化を見据え、未来の命をエンドポイントにした時間軸で、LCA（ライフサイクルアセスメント）の観点から「復興」を再評価し、千年に一度の犠牲に応える「事前復興」を研究・還元していくことが被災地大学に求められていると思います。

また、「まちづくり」を地域づくりと捉えるなら、「インフラを見て暮らしを見ない」「水質を見て生態系を見ない」「木を見て細菌叢を見ない」とならないよう学部横断的な知識と視点を身につけることが「まちづくりリーダー」に求められてくると思います。

環境問題と地域防災を学べる 3.11 被災地ならではのプログラムが、総合大学としての強みをさらに活かし、多角的な視点で地域づくりに貢献できる人材、地域に必要とされる人材を育む場として進化していくことを心より祈念いたします。
